

様式第 1（第 3 条関係）

特定施設設置~~（変更）~~許可申請書

令和〇〇年〇〇月〇〇日

和歌山県知事 様

申請人

（郵便番号〇〇〇－〇〇〇〇）

〇〇県〇〇郡〇〇町〇〇番地

株式会社〇〇

代表取締役 〇 〇 〇 〇

電話番号（〇〇〇） 〇〇〇－〇〇〇〇

瀬戸内海環境保全特別措置法第 5 条第 1 項~~（第 8 条第 1 項）~~の規定により、特定施設の設置~~（変更）~~の許可を受けたいので、次のとおり申請します。

| | | | |
|-----------------------------|--|--------|--|
| 工場又は事業場の名称 | 株式会社〇〇工場 | ※整理番号 | |
| 工場又は事業場の所在地 | 〇〇県〇〇郡〇〇町〇〇番地 「別図 1」参照 | ※受理年月日 | 年 月 日 |
| 特定施設の種類 | 第 4 号ロ、第 72 号 | ※施設番号 | |
| 有害物質使用特定施設の該当の有無 | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> | | |
| △特定施設の構造 | 別紙 1 のとおり。 | ※審査結果 | |
| △特定施設の使用の方法 | 別紙 2 のとおり。 | ※備考 | 担当者 職氏名 〇〇部〇〇係長 電話番号 〇〇〇〇 (000)000-0000 |
| △汚水等の処理の方法 | 別紙 3 のとおり。 | | |
| △排出水の量（排水系統別の量を含む。） | 別紙 4 及び別紙 5 のとおり。 | | |
| △排出水の汚染状態（排水系統別の汚染状態を含む。） | | | |
| △用水及び排水の系統 | 別紙 6 のとおり。 | | |
| △特定施設の設備（有害物質使用特定施設の場合に限る。） | 別紙 7 のとおり。 | | |

- 備考 1 特定施設の種類の欄には、当該特定施設が水質汚濁防止法施行令（昭和 46 年政令第 188 号）別表第 1 又はダイオキシン類対策特別措置法施行令（平成 11 年政令第 433 号）別表第 2 のいずれに該当するか、並びに当該別表に掲げる当該特定施設の号番号及び名称を記載すること。
- 2 有害物質使用特定施設の該当の有無の欄には、該当するものにレ印を記入すること。なお、有害物質使用特定施設に該当しない場合には、別紙 7 を提出することを要しない。
- 3 △印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。
- 4 ※印の欄には、記載しないこと。
- 5 変更申請の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 6 申請書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格 A 4 とすること。

(記載方法)

- 1 工場又は事業場の名称
特定施設を設置しようとする工場又は事業場の名称を記載
- 2 工場又は事業場の所在地
特定施設を設置しようとする工場又は事業場の所在地を記載し、「別図 1」を添付
- 3 特定施設の種類
水質汚濁防止法施行令別表第 1 に該当する施設番号及びその名称を記載
- 4 特定施設の構造
「別紙 1」へ記載
- 5 特定施設の使用の方法
「別紙 2」へ記載
- 6 汚水等の処理の方法
「別紙 3」へ記載
- 7 排出水の量
「別紙 4」へ記載
- 8 排出水の汚染状態
「別紙 5」へ記載
- 9 用水及び排水の系統
「別紙 6」へ記載
- 10 担当者職氏名電話番号
申請内容の照会に応じられる担当者の職氏名及び電話番号を記載

有害物質取り扱いリスト

| | | |
|-----------------|---------------|--------------|
| 工場・事業場名称 | 記入担当部署（又は担当者） | 連絡先TEL |
| 〇〇株式会社 △△事業所 | 〇〇部〇〇課 〇〇係 | XXX-XXX-XXXX |

| 有害物質 | 該当すれば「○」を記入 | | 取り扱い期間 (有害物質の取り扱い開始から終了まで) |
|--|----------------------------|----------------------------------|-------------------------------|
| | 特定施設 (有害物質貯蔵指定施設)での取り扱い | 特定施設 (有害物質貯蔵指定施設) 以外での取り扱い | |
| 四塩化炭素 | | | |
| 1,2-ジクロロエタン | | | |
| 1,1-ジクロロエチレン | | | |
| 1,2-ジクロロエチレン | | | |
| 1,3-ジクロロプロペン | | | |
| ジクロロメタン | | | |
| テトラクロロエチレン | | | |
| 1,1,1-トリクロロエタン | | | |
| 1,1,2-トリクロロエタン | | | |
| トリクロロエチレン | | | |
| ベンゼン | | | |
| カドミウム及びその化合物 | | | |
| 六価クロム化合物 | | | |
| シアン化合物 | | | |
| 水銀及びその化合物 | | | |
| セレン及びその化合物 | | | |
| 鉛及びその化合物 | | | |
| 砒素及びその化合物 | | | |
| ふっ素及びその化合物 | | | |
| ほう素及びその化合物 | | | |
| シマジン | | | |
| チオベンカルブ | | | |
| チウラム | | | |
| ポリ塩化ビフェニル (PCB) | | | |
| 有機リン化合物 (注1) | | | |
| アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物 | | | |
| 塩化ビニルモノマー | | | |
| 1,4-ジオキサン | | | |
| これら上記の全有害物質を取り扱っていない場合は右の空欄に○をご記入ください。 | | | ○ |

注1 有機リン化合物とは、パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン、EPNをいう。

注2 有害物質を取り扱うとは、有害物質を製造、使用、処理又は貯蔵する等をいう。

注3 取り扱う有害物質がある場合は、さらに「有害物質の取り扱い状況」に記入が必要です。

注4 過去取り扱っていた、または今後使用等する有害物質すべてについて記入すること。

「有害物質取り扱いリスト」の記載方法

工場・事業場において「有害物質取り扱いリスト」の一覧にある水質汚濁防止法に定める有害物質を製造、使用、処理、又は貯蔵するなど、有害物質を取り扱う（以下、「取り扱う」と言う。）場合には記入してください。また、取り扱うことがない場合は、最下の欄に○を記入してください。特定施設で取り扱う有害物質だけでなく、これら以外に届出する工場・事業場内で取り扱われる有害物質についても、取り扱いの有無を記載ください。過去に取り扱っており、現在取り扱っていない物質についても可能な限り記載ください。

まず、特定施設又は有害物質貯蔵指定施設で取り扱うのか、それともこれら以外で取り扱うのかにつきまして、どちらか、または両方に○を付けてください。

次に、取り扱っていた期間についても記入下さい（記載例：H10.2～H23.10 / H26.4～）。取り扱い期間が複雑で書ききれない場合などは、別途「有害物質の取り扱い状況」に記載してください。

また、なお、有害物質使用特定施設及び有害物質貯蔵指定施設とは以下のとおりです。

●有害物質貯蔵指定施設

有害物質（液状）を貯蔵することを目的として水質汚濁防止法に定める有害物質を「貯蔵している施設」。なお、貯蔵する有害物質の濃度によらず、大臣が定める方法で検出される濃度であれば届出が必要。

●有害物質使用特定施設

水質汚濁防止法施行令別表第1に規定する特定施設のうち、水質汚濁防止法に定める有害物質を、その施設において製造し、使用し、又は処理する特定施設。なお、製造、使用、処理するとは以下のとおり。

| | |
|-----|---|
| 製 造 | ：当該特定施設において、有害物質を製品として製造すること。 |
| 使 用 | ：当該特定施設において、有害物質をその施設の目的に沿って原料、触媒等として使用すること。 |
| 処 理 | ：当該特定施設において、有害物質又は有害物質を含む水を処理することを目的として有害物質を分解又は除去すること。 |

・有害物質使用特定施設に関する注意点

（１）直接に特定有害物質を製造、使用又は処理していない施設であっても、以下の施設の場合は含みます。【以下カッコ内は水質汚濁防止法施行令別表第一の施設の番号】

①特定有害物質を使用している試験研究機関の研究棟、病院等に設置された洗浄施設

【第71号の2イ、第68号の2ロ】

②特定有害物質を含む製品（1％以上）を製造する工程に付属する施設

（２）ただし、以下のような場合は、有害物質使用特定施設には該当しません。

- | |
|---|
| <p>① 特定有害物質を微量に含む原材料を用いるが、当該特定有害物質に対し何らの働きかけをしない行為</p> <p>（ア）バッチャープラント【第55号】における生コンクリートの製造</p> <p>（イ）石炭を原料とする火力発電施設の廃ガス洗浄施設【第63号の3】における廃ガスの洗浄</p> <p>（ウ）石油精製業（潤滑油再生業を含む）の用に供する施設【第51号】における原油等の精製</p> <p>② 一般廃棄物処理施設【第71号の3】または産業廃棄物処理施設【第71号の4】における廃棄物の処理および下水道終末処理施設【第73号】における下水の処理</p> <p>（ア）廃棄物処理施設からの排ガスに含まれる重金属等の処理施設での処理</p> <p>＊ただし、特定有害物質そのものを廃棄物処理施設で処理することは該当します。</p> <p>③ 特定有害物質を固体以外の状態にせず、かつ、粉状または粒状にしない形での取扱い</p> <p>（ア）特定有害物質を含む固形物（粉状または粒状のものを除く）の洗浄</p> <p>＊ただし、酸等でその固形物の表面を溶解させるか、または研磨等により粉状のものを発生させることを意図して行う場合は該当します。</p> <p>④ 特定有害物質が密封された製品の取扱い</p> <p>（ア）ポリ塩化ビフェニルが封入された電気機器の特定施設の電気系統の一部としての使用</p> |
|---|

有害物質の取り扱い状況

| 使用等物質名 (有害物質) | 薬品名・原料の保管方法（どういう形状のもので購入され、使用等されるまでのように保管されるか）・取り扱い場所（特定施設(有害物質貯蔵指定施設)で取り扱う場合は、どの施設で取り扱われるのか）・取り扱う目的・取り扱い方法・廃液の処理方法・その他 |
|------------------|---|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

有害物質を取り扱わない場合は届出不要

過去使用していた、または今後使用する有害物質すべてについて記入すること。
有害物質が使用されている薬品の成分がわかるもの（MSDS 等）を別途添付すること。

「有害物質の取り扱い状況」の記載方法

「有害物質取り扱いリスト」の一覧にある水質汚濁防止法に定める有害物質を取り扱う場合は、それぞれの項目について、薬品名・原料の保管方法（どういう形状のもので購入され、使用等されるまでのように保管されるか）・取り扱い場所（特定施設(有害物質貯蔵指定施設)で取り扱う場合は、どの施設で取り扱われるのか）・取り扱う目的・取り扱い方法・廃液の処理方法等について記入してください。

なお、有害物質を取り扱わない場合は、前述の「有害物質取り扱いリスト」のみ提出頂き、「有害物質の取り扱い状況」については提出して頂く必要はありません。

この記載例では、保存食料品製造業として作成しており、有害物質は取り扱わない設定ですが、仮に取り扱う（取り扱っている・取り扱っていた）場合のいくつかの記載例を以下に示しますので参考としてください。

【有害物質を取り扱う場合の記載例】

有害物質の取り扱い状況

| 使用等物質名 (有害物質) | 薬品名・原料の保管方法（どういう形状のもので購入され、使用等されるまでのように保管されるか）・取り扱い場所（特定施設(有害物質貯蔵指定施設)で取り扱う場合は、どの施設で取り扱われるのか）・取り扱う目的・取り扱い方法・廃液の処理方法・その他 |
|------------------|--|
| ジクロロメタン | 薬品名は▲▲（別添MSDS参照）。特定施設では使用等しないが、○○のために使用される機械（別添■参照）の部品を洗浄するために使用。部品を水洗等したのち、▲▲をしみ込ませた布で最後に拭く。この布は廃棄物として処理。薬品の入った容器も廃棄物として処理するので、廃液は全て回収されている。 |
| 六価クロム化合物 | 薬品名はXX（別添MSDS参照）。原材料は粉体であり、○○保管室に保管している。○○という特定施設で使用している。製造する金属部品の表面処理に使用。粉体を、当該特定施設の槽で水に溶かして表面処理溶液を作成する。廃液は、殆ど産廃として回収し処理するが、一部回収しきれないものは排水処理施設で処理後、排出される。 |
| 鉛化合物 | 様々な試薬類に含まれており、試験研究時に使用する。使用は研究室内に限られ、廃液及びこれらに使用したフラスコなどの機具類の洗浄水も、鉛が検出限界以下になるまで全量回収し産廃処理するため、排水中には一切含まれない。 |
| シアン化合物 | 薬品名はYY（別添MSDS参照）。現在設置している特定施設で今も使用している。製造する金属部品の表面処理に使用。薬品を、機械の容器に流せば後は自動で表面加工する。廃液は、排水処理施設で処理し排出している。 |
| アンモニア | アンモニア水(20%w/w)として、最大貯蔵量8tの地上タンクに貯蔵している。アンモニア水は、○○を中和するために使用している。アンモニア水は、タンクローリー車からタンクに供給され、タンクから生産設備に流入する。 |

別紙 1

特定施設の構造

| 工場又は事業場における施設番号 | N o . 1 | N o . 2 |
|-----------------|---------------------------------------|--|
| 特定施設号番号及び名称 | 第 4 号 ロ 洗浄施設 | 第 7 2 号 し尿処理施設 |
| 型 式 | ◎◎A型 別図 2－1 | ◎◎省告示第◎◎号◎◎方式 別図 2－2 |
| 構 造 | ステンレス製 別図 2－1 | 鉄筋コンクリート製地下埋設 別図 2－2 |
| 主 要 寸 法 | 縦1,000mm×横200mm×高さ50mm 別図 2－1 | 縦10,000mm×横2,000mm×高さ5,000mm 別図 2－2 |
| 能 力 | ◎◎洗浄◎◎Kg/日 洗浄容量◎◎m ³ /日 | 処理対象人員◎◎人 計画汚水量◎◎m ³ /日 |
| 配 置 | 別図 3 | 別図 3 |
| 設 置 年 月 日 | 年 月 日 | 年 月 日 |
| 工事着手予定年月日 | 年 月 日(許可後) | 年 月 日(許可後) |
| 工事完成予定年月日 | 年 月 日(着手後◎日) | 年 月 日(着手後◎日) |
| 使用開始予定年月日 | 年 月 日(完成後) | 年 月 日(完成後) |
| その他参考となるべき事項 | | |

備考 配置の欄には、当該特定施設及びこれに関連する主要機械又は主要装置の配置を記載すること。

(記載方法)

- 1 工場又は事業場における施設番号
工場又は事業場内の全施設のうちから当該特定施設を特定するために当該工場又は事業場において用いている番号を記載（番号は「別図3」の番号と対応）
 - 2 特定施設号番号及び名称
水質汚濁防止法施行令別表第1の当該特定施設の該当する施設番号及びその名称を記載
 - 3 型式
規格の番号を記載し「別図2」を添付
 - 4 構造
主要な材質・構造を記載し「別図2」を添付
 - 5 主要寸法
施設全体の外形寸法又は主要部の寸法を記載し「別図2」を添付
 - 6 能力
施設を1日最大限稼働させた場合の能力を記載
 - 7 配置
特定施設及びこれに関連する主要機械又は主要装置の配置が分かる「別図3」を添付
特定施設については、色分けする等で他の施設と区別
 - 8 設置年月日
記載不要
 - 9 工事着手予定年月日
工事完成予定年月日
使用開始予定年月日
- } 記載例参照
- 10 その他参考となるべき事項
 - ・ 同時に同機種の特設施設を複数基設置する場合にその数を記載
 - ・ 特定施設の構造について参考となるべきことを記載

別紙 2

特定施設の使用方法

| 工場又は事業場における施設番号 | | No. 1 | | No. 2 | |
|------------------------------------|----------------------------|--------------------------------------|---------|---|---------|
| 特定施設番号及び名称 | | 第 4 号口 洗浄施設 | | 第 7 2 号 し尿処理施設 | |
| 設置場所 | | 別図 3 | | 別図 3 | |
| 操業の系統 | | 別図 4 | | 別図 4 | |
| 使用時間間隔 | | 8 時から 1 7 時 | | 2 4 時間 | |
| 1 日当たりの使用時間 | | 8 時間/日 | | 連続 2 4 時間 | |
| 使用の季節的変動 | | 6 月から 9 月まで稼働 | | なし | |
| 原材料（消耗資材を含む。）の種類、使用方法及び 1 日当たりの使用量 | | 原料 ◎◎kg/日 ◎◎液 ◎◎m ³ /日 | | 塩素系固形錠剤 ◎◎kg/日 ◎◎液 ◎◎m ³ /日 | |
| 汚水等の汚染状態 | 種類・項目 | 通常 | 最大 | 通常 | 最大 |
| | pH | 4～6 | 5.8～8.6 | 5.8～8.6 | 5.8～8.6 |
| | BOD (mg/L) | 1200 | 1500 | 20 | 20 |
| | COD (mg/L) | 900 | 1200 | 30 | 30 |
| | SS (mg/L) | 450 | 600 | 50 | 50 |
| | ノルマルヘキサン (mg/L) | 10 | 15 | 20 | 25 |
| | T-N (mg/L) | 10 | 15 | 20 | 25 |
| | T-P (mg/L) | 3 | 4 | 2.5 | 3.5 |
| | 大腸菌群数 (個/cm ³) | 無数 | 無数 | 0 | <3,000 |
| 汚水等の量 (m ³ /日) | | 通常 | 最大 | 通常 | 最大 |
| | | 240 | 270 | 100 | 100 |
| その他参考となるべき事項 | | ◎◎液については委託業者が回収 (業者名 ◎◎株式会社) | | 汚泥は委託業者が回収 (業者名 ◎◎株式会社) | |

備考 汚水等の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

(記載方法)

- 1 工場又は事業場における施設番号
「別紙1」と同一
- 2 特定施設号番号及び名称
「別紙1」と同一
- 3 設置場所
「別紙1」と同一
- 4 操業の系統
施設を含む操業系統（フローシート）「別図4」を添付
- 5 使用時間間隔
1日における通常の使用開始時間と使用終了時間を記載
- 6 1日当たりの使用時間
1日当たりの使用時間を記載
- 7 使用の季節的変動
施設の使用時間、使用方法に季節的な変動がある場合その内容を記載
- 8 原材料の種類、使用方法及び1日当たりの使用量
施設で使用する原料、薬品等の種類等を記載（燃料は除く）
- 9 汚水等の汚染状態
施設から排出される可能性のある種類・項目の1日の通常値及び最大値を記載
- 10 汚水等の量
施設から排出される汚水等の1日の通常量及び最大量を記載
- 11 その他参考となるべき事項
 - ・汚水等を業者回収している場合はその旨と回収業者名を記載
 - ・施設で製造、使用、処理している有害物質について記載
 - ・施設以外で有害物質を使用している場合はその物質名及び使用量を記載
等

数値突合＝「汚水等の量」通常量合計＝別紙5「特定排出水」通常水量

＝「汚水等の量」最大量合計＝別紙5「特定排出水」最大水量

別紙 3

汚水等の処理の方法

| 工場又は事業場における施設番号 | | N o . 2 - 1 | | | | N o . 2 - 2 | | | |
|---|----------------------------|---|---------|---------|---------|---|---------|------|---------|
| 処理施設の設置場所 | | 別図 3 | | | | 別図 3 | | | |
| 設置年月日 | | 年 月 日 | | | | 年 月 日 | | | |
| 工事着手予定年月日 | | 年 月 日 (許可後) | | | | 年 月 日 (許可後) | | | |
| 工事完成予定年月日 | | 年 月 日 (着手後〇日) | | | | 年 月 日 (着手後〇日) | | | |
| 使用開始予定年月日 | | 年 月 日 (完成後) | | | | 年 月 日 (完成後) | | | |
| 種類及び型式 | | し尿処理施設 〇〇省告示第〇号〇〇方式 (別図5-1) | | | | (株)〇〇設計〇〇型排水処理施設 | | | |
| 構 造 | | 鉄筋コンクリート製地下埋設 (別図5-1) | | | | R C + 鉄製 | | | |
| 主 要 寸 法 | | 縦10,000mm×横2,000mm×高さ5,000mm (別図5-1) | | | | 縦〇〇mm×横〇〇mm×高さ〇〇mm (別図5-2) | | | |
| 能 力 | | 処理対象人員〇〇人、計画汚水量〇〇m ³ /日 | | | | 3 0 0 m ³ /日 | | | |
| 処理の方式 | | 〇〇ばっき方式 | | | | 活性汚泥法＋凝集沈殿 | | | |
| 処理の系統 | | 別図 6 - 1 | | | | 別図 6 - 2 | | | |
| 集水及び導水の方法 | | 別図 7 | | | | 別図 7 | | | |
| 使用時間間隔 | | 2 4 時間 | | | | 2 4 時間 | | | |
| 1 日当たりの使用時間 | | 連続 2 4 時間 | | | | 連続 2 4 時間 | | | |
| 使用の季節変動 | | なし | | | | なし | | | |
| 消 耗 資 材 の 1 日 当 た り の 用 途 別 使 用 量 | | 塩素系固形錠剤〇kg/日 〇〇液〇m ³ /日 | | | | 〇〇 〇kg/日 〇〇 〇kg/日 NaOH 〇kg/日 | | | |
| 汚水等の汚染状態及び量 | 種類・項目 | 通 常 | | 最 大 | | 通 常 | | 最 大 | |
| | | 処理前 | 処理後 | 処理前 | 処理後 | 処理前 | 処理後 | 処理前 | 処理後 |
| | pH | 5.8～8.6 | 5.8～8.6 | 5.8～8.6 | 5.8～8.6 | 4～6 | 5.8～8.6 | 4～6 | 5.8～8.6 |
| | BOD (mg/L) | 200 | 20 | 250 | 20 | 1200 | 10 | 1500 | 20 |
| | COD (mg/L) | 200 | 30 | 250 | 30 | 900 | 15 | 1200 | 30 |
| | SS (mg/L) | 200 | 50 | 250 | 50 | 450 | 50 | 600 | 60 |
| | ノルマルヘキサ (mg/L) | 35 | 20 | 40 | 25 | 10 | 8 | 15 | 12 |
| | T-N (mg/L) | 25 | 20 | 30 | 25 | 10 | 8 | 15 | 10 |
| | T-P (mg/L) | 3 | 2.5 | 4 | 3.5 | 3 | 2.5 | 4 | 3 |
| | 大腸菌群数 (個/cm ³) | 無数 | 0 | 無数 | <3,000 | 無数 | 0 | 無数 | <3,000 |
| 量 (m ³ /日) | | 100 | 100 | 100 | 100 | 250 | 250 | 300 | 300 |
| 残さの種類、1月間の種類別生成量及び処理方法 | | 濃縮汚泥〇〇m ³ /日は業者回収 回収業者名〇〇 (株) | | | | 汚泥〇〇m ³ /日は業者回収 回収業者名〇〇 (株) | | | |
| 排出水の排出方法 | | 排水口の位置：別図7、排水口の数：1、排出先：〇〇水路→〇〇川 | | | | 排水口の位置：別図7、排水口の数：1、排出先：〇〇水路→〇〇川 | | | |
| その他参考となるべき事項 | | | | | | | | | |

備考 1 汚水等の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排出水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。
2 排出水の排出方法の欄には、排水口の位置及び数並びに排出先を含め記載すること。

(記載方法)

- 1 工場又は事業場における施設番号
工場又は事業場内の全施設のうちから当該特定施設を特定するために当該工場又は事業場において用いている番号を記載
- 2 処理施設の設置場所
「別図 3」に記載し添付
- 3 設置年月日・工事着手予定年月日・工事完成予定年月日・使用開始予定年月日
設置年月日は記載不要。それ以外は記載例参照。
- 4 種類及び型式
施設の種類、型式を記載し「別図 5」を添付
- 5 構造
主要な材質・構造を記載し「別図 5」を添付
- 6 主要寸法
施設全体の外形寸法又は主要部の寸法を記載し「別図 5」を添付
- 7 能力
施設を 1 日最大限稼働させた場合の能力を記載
- 8 処理の方式
処理の方式について記載
- 9 処理の系統
処理系統をフローシートに記載し系統図及び設計計算書を記載した「別図 6」を添付
- 10 集水及び導水の方法
施設から汚水等の処理施設に至る経路を図面に記載した「別図 7」を添付
- 11 使用時間間隔
1 日における通常の使用開始時間と使用終了時間を記載
- 12 1 日当たりの使用時間
1 日当たりの使用時間を記載
- 13 使用の季節変動
施設の使用時間、使用方法に季節的な変動がある場合その内容を記載
- 14 消耗資材の 1 日当たりの用途別使用量
処理施設において、中和・凝集・酸化・その他の反応に使う薬品等の 1 日当たりの使用量を記載
- 15 汚水等の汚染状態及び量
処理施設の使用時における入口（処理前）及び出口（処理後）の水質の通常値（平常運転値）及び最大値（処理能力値）並びに水量の通常量（平常運転量）及び最大量（処理能力量）を記載
- 16 残さの種類、1 月間の種類別生成量及び処理方法
処理により発生する発生残差の 1 か月間の種類別生成量を記載
- 17 排出水の排出方法
排水口の位置、数、排出先（例：◎◎水路→◎◎川）を記載し「別図 7」を添付
- 18 その他参考となるべき事項
その他参考となるべき事項があれば記載

別紙 4

排水水の汚染状態及び量

| 工場又は事業場における施設番号 | | 排水口No. 1 | | 排水口No. 2～No. 3 | |
|--------------------------|---------------------------|----------|---------|----------------|---------|
| 排水水の汚染状態 | 種類・項目 | 通 常 | 最 大 | 通 常 | 最 大 |
| | pH | 5.8～8.6 | 5.8～8.6 | 雨水専用排水口 | 雨水専用排水口 |
| | BOD(mg/L) | 4 | 6 | | |
| | COD(mg/L) | 5 | 9 | | |
| | SS(mg/L) | 14 | 17 | | |
| | ノルマルヘキサン(mg/L) | 3 | 4 | | |
| | T-N(mg/L) | 3 | 4 | | |
| | T-P(mg/L) | 0.5 | 0.8 | | |
| | 大腸菌群数(個/cm ³) | 500 | <3,000 | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 排水水の量(m ³ /日) | | 通 常 | 最 大 | 通 常 | 最 大 |
| | | 1450 | 1700 | | |
| その他参考となるべき事項 | | | | | |

備考 排水水の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

(記載方法)

- 1 工場又は事業場における施設番号
排水口の番号又は名称を記載
- 2 排水水の汚染状態
排水口別に1日の排水水の水質の通常値(平常運転値)及び最大値(年間最大運転値)を記載
種類・項目:排水基準規制項目のうち、工場又は事業場で関係する種類・項目
- 3 排水水の量
排水口別に1日の排水水の水量の通常値(平常運転量)及び最大量(年間最大運転量)を記載
- 4 その他参考となるべき事項
その他参考となるべき事項があれば記載

数値突合＝「排水口No.1」通常水量＋「排水口No.2」通常水量＝別紙5「特定排水水」通常水量
＋「特定排水水以外の排水水」通常水量

＝「排水口No.1」最大水量＋「排水口No.2」最大水量＝別紙5「特定排水水」最大水量
＋「特定排水水以外の排水水」最大水量

＝「排水口No.1」最大水量＋「排水口No.2」最大水量＝別紙6「用水及び排水の系統」
合計水量＝別紙6「用途別用水使用量」合計

排水水の排水系統別の汚染状態及び量

| | | | | | | 指定項目の別 | | | COD | | |
|-----------|--------------|----------------|----------|---------------|------------|-----------------|----------|------------|-----------------|------------|---|
| 特定排水 | 業種その他の区分 | 汚染状態 (mg/l) | | 水 量 (m³/日) | | | | | 汚濁負荷量 (kg/日) | | ※ |
| | | 通常 | 最大 | 通常 | 最大 | Qco | Qci | Qcj | 通常 | 最大 | |
| | 16 221(3) | 15 30 | 30 30 | 250 100 | 300 100 | | | 300 100 | 4.5 3.0 | 9.0 3.0 | |
| | 合 計 | | | 350 | 400 | | | 400 | 7.5 | 12.0 | |
| | | | | | | | | | | | |
| 特定排水以外の排水 | 種類及び用途 | 汚染状態 (mg/l) | | 水 量 (m³/日) | | 汚濁負荷量 (kg/日) | | | | | |
| | | 通常 | 最大 | 通常 | 最大 | 通常 | 最大 | | | | |
| | 冷却水 雨水 | 1 - | 2 - | 1100 - | 1300 - | 1.3 - | 2.6 - | | | | |
| | 合 計 | | | 1100 | 1300 | 1.3 | 2.6 | | | | |
| その他の参考事項 | | | | | | | | | | | |

- 備考
- 1 本紙の記載にあたっては、指定項目ごとに作成すること。
 - 2 指定項目の別の項、汚染状態の項及び汚濁負荷量の項には、指定項目について記載すること。
 - 3 窒素含有量について記載する場合には、「Q_{co}」を「Q_{no}」と、「Q_{ci}」を「Q_{ni}」と読み替え、Q_{cj}の項には記載しないこと。
 - 4 リン含有量について記載する場合には、「Q_{co}」を「Q_{po}」と、「Q_{ci}」を「Q_{pi}」と読み替え、Q_{cj}の項には記載しないこと。
 - 5 ※印の欄には記載しないこと。

(記載方法)

1 指定項目の別

化学的酸素要求量 (COD)、窒素含有量及びりん含有量の3項目についてそれぞれ記載、作成

2 特定排水

(1) 業種その他の区分

業種によって指定された番号を記載

番号：「化学的酸素要求量、窒素含有量及びりん含有量に係る総量規制基準」を参照

(2) 汚染状態

特定排水の処理後の化学的酸素要求量、窒素含有量及びりん含有量を記載

(3) 水量

業種ごとの排水の量を記載。Q値については次のとおり

・COD

Q_{c0} = 特定排水の量 (Q_{ci} 及び Q_{cj} を除く)

Q_{ci} = 昭和55年7月1日から平成3年6月30日までの間に増加した特定排水の量

Q_{cj} = 平成3年7月1日以降に増加した特定排水の量

・窒素含有量

Q_{n0} = 特定排水の量 (Q_{ni} を除く)

Q_{ni} = 平成14年10月1日以後に新增設により増加した特定排水の量

・りん含有量

Q_{p0} = 特定排水の量 (Q_{pi} を除く)

Q_{pi} = 平成14年10月1日以後に新增設により増加した特定排水の量

(4) 汚濁負荷量

通常：汚染状態 (通常) \times 水量 (最大) $\times 10^{-3}$

最大：汚染状態 (最大) \times 水量 (最大) $\times 10^{-3}$

桁数：COD及び窒素含有量は小数点以下第2位で四捨五入し小数点以下第1位まで記載、りん含有量は小数点以下第3位で四捨五入し小数点以下第2位まで記載

3 特定排水以外の排水

間接冷却水、雨水等を記載

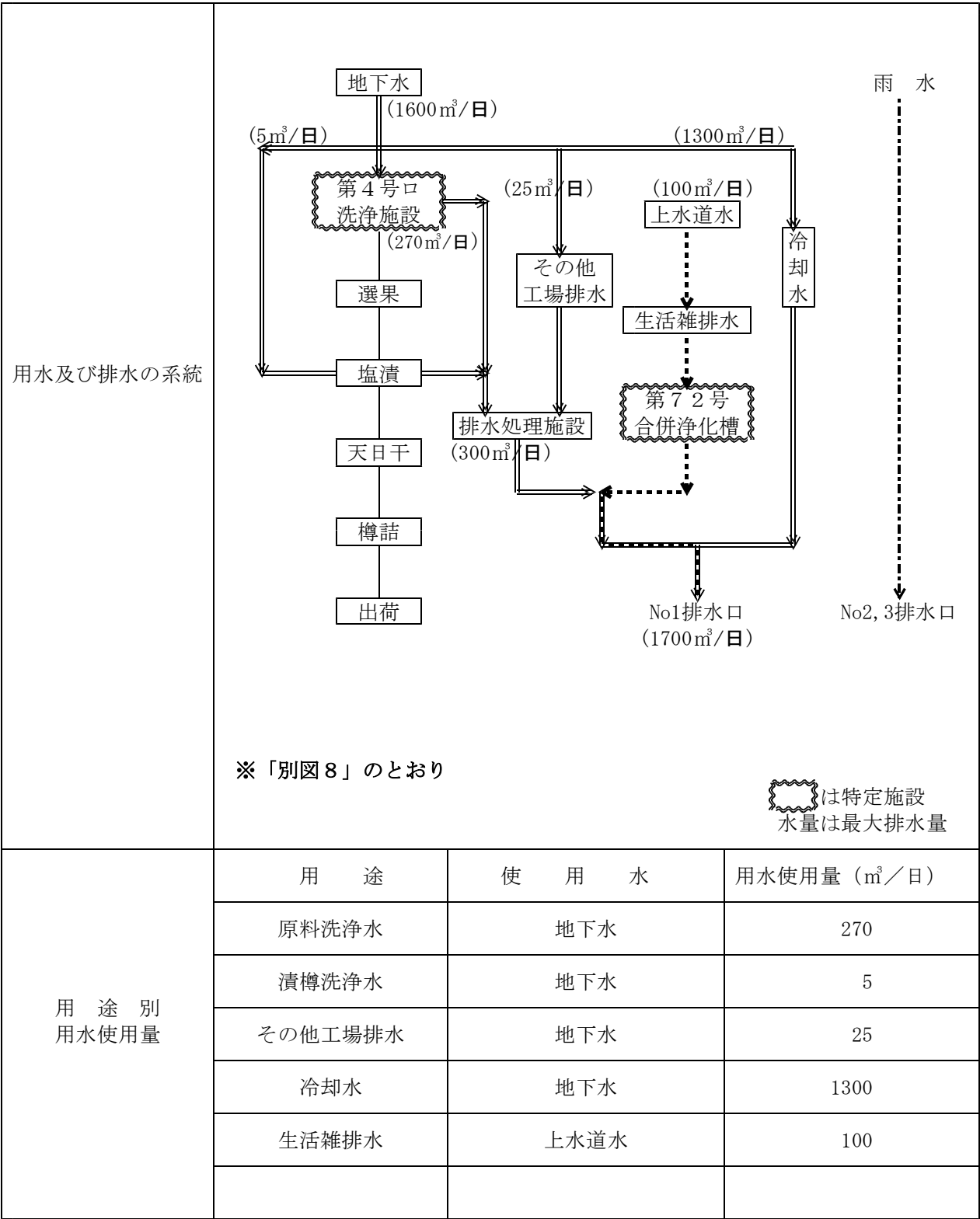
数値突合 = 「特定排水」通常水量 = 別紙2「汚水等の量」通常合計

= 「特定排水」最大水量 = 別紙2「汚水等の量」最大合計

= 「特定排水」通常水量 + 「特定排水以外の排水」通常水量 = 別紙4「排水口No. 1」通常水量 + 「排水口No. 2」通常水量

= 「特定排水」最大水量 + 「特定排水以外の排水」最大水量 = 別紙4「排水口No. 1」最大水量 + 「排水口No. 2」最大水量

用水及び排水の系統



(記載方法)

1 用水及び排水の系統

水量については、最大水量を系統別に色分けする等区別して記載

書ききれない場合など、「別図 8」を添付しても可能

用水：「工業用水」、「上水道水」、「地下水」、「海水」、「河川水」、「雨水」、「循環水」
「温泉水」等の種類で記載

2 用途別用水使用量

用水及び排水の系統に記入された水量の内訳を記載

用 途：洗浄水、間接冷却水、生活雑排水等の区分で記載

使用水：用水の種類を記載

数値突合＝「用水及び排水の系統」合計水量＝「用途別用水使用量」合計

＝「用水及び排水の系統」合計水量＝「用途別用水使用量」合計＝別紙 4 「排水口 No. 1」
最大水量＋「排水口 No. 2」最大水量

＝「用水及び排水の系統」合計水量＝「用途別用水使用量」合計＝別紙 5 「特定排水」
最大水量＋「特定排水以外の排水」最大水量

今回の例は、有害物質使用特定施設がない場合を想定しているため、本来は別紙7の届出は不要ですが、仮に添付が必要となった場合の記載例を示します。

別紙7

| | | |
|-----------------|---|---------------------------|
| 特定施設の設備 | | |
| 工場又は事業場における施設番号 | N o . ○ ○ | |
| 特定施設番号及び名称 | 第○○号 ○○施設 | |
| 設 備 | 地上配管、バルブ、フランジ | |
| 構 造 | ステンレス製 | |
| 主 要 寸 法 | 地上配管 直径200mm×50m バルブ 2箇所 フランジ 3箇所 別図○○のとおり | 別図 のとおり |
| 配 置 | 化学工場の屋外から化学工場の 1階 別図○○のとおり | 別図 のとおり |
| 設 置 年 月 日 | 年 月 日 | 年 月 日 |
| 工事着手予定年月日 | 年 月 日（許可後） | 年 月 日 |
| 工事完成予定年月日 | 年 月 日（着手後○日） | 年 月 日 |
| 使用開始予定年月日 | 年 月 日（完成後） | 年 月 日 |
| その他参考となるべき事項 | | |

- 備考 1 有害物質使用特定施設に該当しない場合には、本様式を提出することを要しない。
 2 配置の欄には、当該特定施設の設備の配置を記載すること。

(記載方法)

別紙7には、有害物質貯蔵指定施設「本体」に付帯する配管等、排水溝等（以下「設備等」という。）について記載下さい。

なお、配管等、排水溝等とは以下のとおりです。

| | |
|------|---|
| 配管等 | ：有害物質使用特定施設等の施設本体に付帯する配管本体、継手類、フランジ類、バルブ類、ポンプ設備等。 |
| 排水溝等 | ：有害物質使用特定施設等の施設本体に付帯する排水溝、排水ます及び排水ポンプ等の排水系統の設備等。 |

なお、「別紙7」については、有害物質使用特定施設がある場合のみ、記載・提出が必要です。

したがって、特定施設が複数ある事業場で、そのうち1つだけ有害物質使用特定施設がある場合は、その1つの有害物質使用特定施設についてのみ別紙1の2に記載し、提出して下さい。

1 工場又は事業場における施設番号

「別紙1」と同一。

2 特定施設号番号及び名称

「別紙1」と同一。

3 設備

設備等の全てについて記載。

4 構造

「3 設備」に記載した設備等の材質を記載し、検知設備を有する場合にはその旨記載すること。これらの構造等が分かる資料（設計図、構造図、カタログ、写真等）を添付。

（構造基準に対する適合の有無がわかるよう記載し、それを説明・補完する添付資料が必要）

5 主要寸法

「3 設備」に記載した設備等の主要寸法を記載。可能な限り、図面等を添付。

6 配置

設備等が設置された建物の名称・位置等を記載。

地下（半地下・一部地下）に設置されている場合には、必ずその旨記載すること。

設備等の配置が分かる図面等を添付。

7 設置年月日

これから設置する特定施設については記載不要。

8 工事着手予定年月日

工事完成予定年月日

使用開始予定年月日

} 予定年月日を記載。

9 その他参考となるべき事項

当該有害物質使用特定施設の設備等の構造等について参考となるべきことを記載。

設備等のうち、有害物質を含む水が流れない場合には、構造等に関する基準が適用されないので、この欄にその旨記載すること（流れない理由や、流れないようにする方法等も記載）。

なお、有害物質を含むか含まないかの判断は、法で定められた測定法で測定して検出されるかされないかによる。

※各記入欄が小さい場合は、別に資料、図面等を作成し提出しても良い。ただし、**記入欄には、「別添◎◎のとおり」のようにその旨を明記し、どの資料、図面等に記載しているかを明確にすること。**